

空手道の2020年オリンピック正式種目化を推進する会 東京五輪空手道採用へ大きな一歩！

笹川会長、WKF エスピノス会長と共に IOC バッハ会長を訪問



世界空手連盟（WKF）代表者が7月28日、スイス・ローザンヌの国際オリンピック委員会（IOC）本部を訪問し、トーマス・バッハ会長、IOC スポーツディレクターのキット・マッコネル氏と会談。WKFからは、アントニオ・エスピノス会長、（公財）全日本空手道連盟会長の笹川堯氏、WKF 理事の奈藏稔久氏、ドイツ空手道連盟会長のヴォルフガング・ワイゲルト氏が出席。

Latest News

東京五輪での空手採用に再びチャンス

現在、国際オリンピック委員会（IOC）は東京オリンピック（2020年）における競技種目に関して、再び検討を開始していると前号に書いた。要点としては、総競技参加者数は10,500名以下としながらも、競技種目は柔軟に追加する可能性を示唆していることだ。

さらに、2014年7月19日にIOC公式ホームページに公開されたニュースによると、開催地が追加競技種目を選択できるようにするかもしれない、という情報が掲載されていた。これらは全て、今年12月の8、9日、モナコで行われるIOC総会により決議される予定だ。

もし、競技種目が増えることとなり、かつ開催地が競技種目を選択できるとなれば、がぜん空手道にとって明るい兆しといえる。

本紙前号で掲載したように、国会議員有志により「空

手道推進議員連盟」が立ち上がったことの意味は大きい。また、大手メディアや新聞に全空連所属選手が取りあげられることが少しずつ増えているが、これは空手道がこれまで以上にメディアに登場し、メジャースポーツとして認知され始めている証拠だ。今は、国内のこの流れをさらに大きなものにすべき時といえる。

そして、今回絶妙なタイミングで空手道競技の世界のトップたちがIOCを訪問し、バッハ会長に直接空手をアピールできたというニュースは、追い風となる。

空手発祥の地である日本の首都・東京で、日本の大切な文化である空手道がオリンピック追加種目となる夢が現実となる可能性は高まっている。国内で空手熱を盛り上げるのは、我々空手に携わる全ての人たちである。個人個人が、五輪採用に向け、少しずつでも空手の良い印象を一層世論に提示し、一丸となる絶好の契機だ。